

羽黒山—2つの古道

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 常任理事 筑井信明

東日本最大の修験の霊地とされた出羽三山には江戸時代以前から多くの修行者、参拝者が訪れ、特に三社合祭殿のある羽黒山は低山であり女性も参詣できたため、現代にいたるまで最も賑わいを見せています。今年は「丑歳御縁年」でありながらあいにくのコロナ禍で人出は少ないようですが、この秋、三山を訪れ、念願の羽黒山古道を歩くことができました。

出羽三山には八方七口といわれるほど多くの登山道がありましたが、今も最も多く利用されているのは日本海側の鶴岡からバスや車で行く手軽な羽黒口登拝で、普通は隋神門から国宝の五重塔を経て2446の石段を踏み羽黒山頂上の神社まで歩きます。車が無かった時代には、最上川を下って東北・関東方面から来る参拝者も多かったようです。17世紀末『奥の細道』の旅の松尾芭蕉もこの最上川ルートを通して羽黒山に参り、さらに月山、湯殿山という高山にまで登っています。



羽黒山頂に至る道はこの石畳の表参道の他に2か所あり、それぞれ趣深い古道となっています。ひとつは、羽黒山頂上から山裾の仏教寺院・荒澤寺方面に至る登山道で、「東北自然歩道修験道のみち」の石碑が建っています(写真)。杉と樺の古木に囲まれ、秋の峰入行事にも使われるこの道は、荒澤寺を経てさらに月山にまで延びています。現在は2合目付近から自動車道に合流しますが、往時は1合目ごとに小屋があり、参拝者が時間をかけて羽黒山から月山・湯殿山に向かう道だったのでし

ょう。厳しい修験の場である立谷沢川上流の三鉢沢(珊瑚沢)に通じる道でもあります。もうひとつの古道は、上で述べた、最上川を下って川港である清川で下船して東北側から登る場合に利用されたルートです。月山から流れ出る立谷沢川に沿う鉢子という集落から始まり、羽黒山頂の千佛堂のすぐ裏に出ます。この道もかつては出羽三山奥参りの表参道口とされ、芭蕉も歩いたと思うのですが、『義経記』には弁慶の平泉落ちの経路という記述もあります。道は一時廃道になっていたのですが、10年ほど前に地元・山形県庄内町の有志が復活し、同町ではこれを地域振興のためにPRしています。この模様は同町制作の動画『羽黒古道を復元する(YouTubeで配信中)』で見ることができます。復元させたのは「羽黒山修験道を守る会」のメンバーで、子供時代を思い出しながら、自分たちの楽しみとして道を開いていったそうです。

今回は復活したこの道も、往復で約3時間、羽黒山の自然の中を楽しく歩き、途中で山栗の実を拾うこともできました。ただ、庄内町の話では、ここ2年ほどの活動自粛で歩く人がほとんど無かったそうで、道筋はしっかりしていますが一部にやや荒れた箇所がありました。ここにもコロナ禍の影響が出ているわけです。出羽三山参りには、六十里街道と呼ばれる内陸の古道を経て最初に湯殿山に登るルートもあり歩いてみたいと思っています。こちらも地元の方が整備を行っています。

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-----------|------------------------------|---------|
| ○1月7日(金) | まち歩きクラブ「川越七福神巡り」 | <今号で紹介> |
| ○1月18日(火) | プレミアム講座「縄文土器とは何か」 | <今号で紹介> |
| ○1月15日(土) | 古代史研究会「古代文化を考える会(第4回)」 | <今号で紹介> |
| ○2月19日(土) | 古道探索倶楽部「第33回古道を訪ねて 日光道中その6)」 | <今号で紹介> |
| ○3月4日(金) | まち歩きクラブ「嵐山町の山城・杉山城と石仏」(予定) | <次号で紹介> |
| ○3月20日(日) | 講演会「中世武士と馬」(一昨年に企画を中止した講演会) | <次号で紹介> |

友の会会員の皆様へ

重要なお知らせ

令和4年(2022年)度に向けての令和2・3年度会員の更新について

令和2・3年度は更新・新入会あわせて410名の方が会員となっておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策で年度初めより博物館閉館や集会施設の使用制限などもあり、ご期待に応える活動は全くできませんでした。

このような状況を踏まえ、令和4年度(2022年度)については会費を徴収せず、現会員を自動的に令和4年度会員として登録させていただきます。新しい会員証については2~3月に発行する友の会会報に同封してお届けいたします。

なお、令和4年1月~3月中の新入会希望者については、繰り上げて令和4年度(2022年度)会員証を発行いたします。

中断している友の会諸活動が再開された際には、即刻ご活用いただき、また博物館・博物館友の会に対するご支援も宜しくお願い致します。

◆令和2~3年度(2020~2021年度)入会の会員は自動的に令和4年度(2022年度)会員となります。会費払込は不要です。

◆新年度の会員証を2~3月発行の会報に同封してお届け致します。

◆「友の会会報」や「博物館からのお知らせ」などの配布が不要の方はご連絡ください

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 会長 岩井隆興
理 事 会

中断していた友の会諸活動も3-4頁に掲載しました通り、いよいよ再開の運びとなります。即刻会員特典をご活用いただき、また博物館・博物館友の会に対するご支援も宜しく願います。

◆川越七福神巡り 心機一転、平安を願いましょう◆

2022年(令和4年)1月7日(金)に「まち歩きクラブ」(研究会を改称)

- 《日時》2022年(令和4年)1月7日(金) 10時00分～15時00分頃
- 《集合》東武東上線・川越駅改札前 午前10時 集合 雨天中止
- 《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
- 《概要》仏教・道教・土着神の祭ってあるお寺を順にお参りし市内をほぼ一巡します。七福神は宗教にこだわらない日本の伝統的民俗で、川越では江戸時代以来の歴史があります。歩行は3～4時間を予定。
- 《行程》①妙善寺(毘沙門天)⇒②天然寺(寿老人)⇒③喜多院(大黒天)⇒④成田山(恵比寿天)⇒⑤蓮馨寺(毘沙門天・ここで昼食休憩)⇒⑥見立寺(布袋尊)⇒⑦妙昌寺(弁財天)⇒東武東上線川越市駅
- 《申込・問合せ》①「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームでお願いします。
②Eメール(筑井)：pu8n-tki@asahi-net.or.jp 問い合わせ電話：090-1990-4807

◆第33回古道を訪ねて 日光道中その6◆

2022(令和4年)年2月19日(土)に「古道探索倶楽部」

- 《日時》2022年(令和4年)2月19日(土) 集合9時30分～解散15時30分(予定)
- 《集合》東武伊勢崎線東武動物公園駅改札口周辺 9:30
- 《コース》東武伊勢崎線東武動物公園駅⇒杉戸宿⇒宝性院⇒旧日光街道⇒高野の渡し⇒永福寺⇒一里塚⇒御成街道⇒日光道中合流点⇒神宮寺⇒岸本家⇒東武日光線幸手駅解散
- 《費用》資料代等・参加費 500円(変更させていただきました)
- 《その他》歩行距離は約9km、史跡巡りを入れると10km少々。お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。
- 《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017
- 《参加申込み》2月9日(水)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて 友の会ホームページ申込可
*日光道中歴史散策は、東武伊勢崎線竹ノ塚駅より栗橋駅までを7回シリーズで、お届けしています。

◆新しい視点で学ぶ日本の古代史◆

2022年(令和4年)1月15日(土)に「古代文化を考える会(第4回)」

- 《日時》2022年(令和4年)1月15日(土) 13時00分～16時00分
- 《場所》当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車
- 《テーマ》渡来後の「倭人(天氏)」と「日本語」の起源
「Y染色体遺伝子」の研究成果により、日本人の遠い祖先「日本・朝鮮・満州」グループが生まれたのは「1万5000年～1万年前」の「沿海州」付近であったろうという。その後、満州と分化しながら南下し、「紀元前4700年～前2700年」頃には朝鮮と分かれて「渤海沿岸」(医巫閭山)付近に住み着く。「辰」の誕生である。「辰」の誕生「辰の言語」の誕生。「辰」の一部は中国の「呉地方」まで南下する。紀元前1200年頃には倭人と呼ばれる。それは「辰」の代表的な氏族である「安曇辰伝氏」である。「安曇辰伝氏」は「倭人(天氏)」であり、北部九州に渡来する「渡来系弥生人」である。紀元前473年の「呉越の戦い」で呉が越に敗れると、彼ら「倭人」は北上して、「渤海沿岸」をまわり、「朝鮮半島南部」を経て(高天原を建国)、前140年～120年頃には北部九州に渡来する。「天孫降臨」である。彼らが「日本人」の基盤になると同時に「日本列島」に「辰の言語」をもたらす。それが「日本語」になる。日本以外の地域の「辰人」(干曇辰伝氏：弁辰、辰韓を樹立)は他の氏族に吸収されて「辰の言語」は消滅する。そのため「日本語」は外部に同系言語を持たない孤立した「言語」になった。先生にはいまだ定説がない「日本人」と「日本語」の起源を解き明かしていただきます。
【本の紹介】先生は『早わかり「日本通史」(概要編) 新「日本の古代史」(佃説)』を講演会参加者のために執筆されました。今後は従来の資料に加え、当該本を使用する予定です。B5版234ページ 定価1,600円+税。当日は特価で販売いたしますのでご購入をご検討いただければと思います。
- 《講師》佃 收 先生
- 《費用》資料代として500円、本代1000円(希望者)
- 《申込》暫くぶりの開催となりますので参加を希望される方は、①「普通ハガキ」(「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」-「古代文化を考える会」-宛て) 参加の他、氏名・住所・会員番号・電話番号を明記)、または②「友の会ホームページ」を通してお申し込みください(締切期日：1月8日)。申し込み多数の場合(現定員81名)は抽選とさせていただきます。
- 《問合せ先》斉藤 048-853-6728 《お願い》マスク着用など感染症対策をお願いします。

縄文土器とは何か

～縄文土器をより深く楽しむために～

縄文土器とは縄目文様のついた土器のこと？ 縄文時代中期とは何を意味しているの？ 展示会やイベントで時々見かける説明文をあなたは充分納得できますか？ 今回は、大昔のご先祖様が使った縄文土器について基本的な見方や考え方を教わります。この分野のおよそ百年の研究史は、時代と地域に大きな広がりを持ちますが、その入門編としてのお話は何から始まるのでしょうか、お楽しみに。

講師の村田館長のご専門は考古学（縄文時代）。縄文土器を中心にした縄文時代研究のご経験をベースに、広く県内の文化財保護行政にもご尽力されてきました。今年度から当館の館長を務められています。

講師 村田 章人 氏 当館館長

日時 2022年 1月18日（火） 13:30～14:30

（開場：13時）

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（野田線）大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

ご参加のお申し込みは、**往復ハガキ**で、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。返信ハガキ宛名面への住所・氏名もお忘れなく。1月11日（火）までに、下記の宛先へ会員ご本人限定でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
定員は先着80名とさせていただきます。当日は、受付番号記入済みの返信ハガキをお持ちの上、マスク着用等入館のルールに従ってご来場ください。

＊ ＊ 「友の会ホームページ」からの募集は今回は行いません。 ＊ ＊

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会